

令和6年11月

第2回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

令和6年度 第2回 白山市総合教育会議

日 時 令和6年11月13日（水）午後2時

場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協議事項

（1）中学校部活動の地域連携及び地域移行について

（2）その他

4 閉 会

出席委員

白山市長	田 村 敏 和
白山市教育長	清 水 茂
白山市教育長職務代理者	竹 内 千恵子
白山市教育委員	小 寺 正 彦
白山市教育委員	安 川 薫
白山市教育委員	佐 賀 一 夫

欠席委員

白山市教育委員	尾 張 勝 也
---------	---------

事務局出席職員

教育部長	谷 口 由紀枝
教育総務課長	西 村 幸 広
学校教育課長	藤 法 生
学校指導課長	齋 藤 信 之
生涯学習課長	米 木 伸 一
教育総務課長補佐	長 島 史 晃
教育総務課係長	山 崎 有 香
観光文化スポーツ部長	山 田 昌 宏
文化課長	小 中 和 也
スポーツ課長	西 田 剛 志
協働推進課長	横 川 元 子

傍聴者 1 名

開会 午後 2時00分

○教育総務課長（西村 幸広）

定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第2回白山市総合教育会議を開会いたします。本日は尾張委員からご欠席の連絡が入っております。

◎市長挨拶

○教育総務課長（西村 幸広）

本日の会議につきましては、非公開とする内容はないと考えられますので、原則どおり本日の会議を公開したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

○構成員

異議なし

○教育総務課長（西村 幸広）

それでは公開といたします。開会にあたり、田村市長よりご挨拶をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○市長（田村 敏和）

皆さん、こんにちは。本日は白山市総合教育会議の開催にあたりまして、委員の皆様方には大変お忙しい中、こうやって時間を割いてお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また日頃から白山市の教育の充実に向けまして、ご尽力を賜っておりますことを心より御礼を申し上げます。

前回会議を開いたときには7月で、パリオリンピックの開催期間中でありました。新田選手と木島選手の応援ということをご祈念申し上げて、ご挨拶をさせていただきましたが、実際にクレインにおきましてパブリックビューイングを開くなど、市民の皆さんで応援することができて良かったと思っております。

こうやって市にとりましても、本当に大きな喜びであった、誇りでもあったということを思っております。改めて両選手の健闘をたたえて、今後のますますの御健闘、御健勝も祈りたいと思っています。

さて、本日の議題でございますが、本市におけるスポーツの振興、子どもたちの心身の健全な育成にも繋がります「中学校の部活動」についてでございます。今まで何度かこの議題については、取り上げてきていただいておりますが、昨年そして一昨年で、今回で3回目になりますでしょうか、この総合教育会議で取り上げさせていただいております。その後、部活動の在り方協議会で検討を様々重ねてきていらっしゃる中で、取組方針（案）の作成など、地域連携、そして地域移行に向けた取組みも徐々に具体化してきているのではないかと考えています。本日その具体化した取り組みについて、またいろいろ意見交換できればと思っています。中学校の部活動というのは、学年を超えて生徒が自主的に活動することによりまして、生徒の協調性、そして責任感を育むなど教育的な意味がございます。その在り方を変えようとするということは、大変大きな課題でございますので、改めて現状をお伝え申し上げ、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜ればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○教育総務課長（西村 幸広）

本日の会議には、観光文化スポーツ部の山田部長のほか、部活動の地域連携に関する関係所属長も出席しております。出席者の名簿は、次第の裏面に記載のとおりです。

それではこれより協議事項に入りたいと思います。議事の進行につきまして、主宰者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

◎協議事項

○市長(田村 敏和)

それでは、協議事項に入ります。本日の協議議題は、「中学校部活動の地域連携及び地域移行について」であります。どうぞよろしくお願いいたします。

この議題につきまして、まず事務局より説明をお願いいたします。

○学校指導課長(齋藤 信之)

(資料にて説明)

◎意見交換

○市長(田村 敏和)

それでは説明が終わりましたので、委員の皆さまからご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。———— 佐賀委員、どうですか。

○教育委員(佐賀 一夫)

先日、この資料をいただいて、一覧させていただいたのですが、大変、難しい複雑な作業をきれいにまとめていただいて、本当に分かりやすくなっていると思います。特にこのイメージ図を見ると、現在の部活動のあり方、白山市が目指す方向性というものがよく分かるようになっておりまして、先ほど言われた、今ある課題を発展的に解消していこうという意識が現れていて、良いと思っております。先ほども説明ありました、現在は地域移行というワードが、地域展開という呼称に変えられるのは、受け入れる立場側としても聞き入れやすいのではないかと思います。

あと、これからスポーツ活動や文化活動で地域へ展開する中で、新たに地域開放というイメージでも少し学校の施設、システムを広く地域に還元していくようなやり方で取り組んでいくと、なお一層、支援してくれる方が協力しやすくなるのではないかと思います。

これ以降、進めていくに当たって、やはり課題がいくつか述べられていましたけれども、例えば人材でしょうか。資料の中に指導者の確保について、人材

バンク的な役割を市単独、独自で検討するとありましたけれども、これは県の方でも一応あつせんする方向ではあるけれども、白山市独自で、コーディネートという言葉もありましたけれども、マッチングできるような仕組みを作っていくということでしょうか。

○学校指導課長（齋藤 信之）

おっしゃるとおりで、県の方も人材バンク、受け入れバンクというものを作成すると申しておりますが、白山市としても関係課と連携しながら、こういう受け皿があります、ということ今年度末にかけてできるようにしていきたいと思っておりますし、もうすでにスポーツ少年団の今年度出された冊子には、このクラブは小学生だけでなく、中学生も受け入れます、という表も作ってくださっておりまして、その部分をさらに充実させていくことが必要というふうに思っております。

○教育委員（佐賀 一夫）

いろいろ少年団だけではなくて、実業団といったところで活躍されている方が、実は意外と学校現場に指導する環境を探している、ということをお聞きします。今まではなかなか教育の現場に踏み込みづらい、という雰囲気があったりしたので、もしそういった関係先があれば、うまくマッチングさせてあげて、お互いの活躍できる場があったら良いと思います。

あと、活動場所として学校施設の方を提供することにはなるかと思っておりますけれども、どうしてもセキュリティの問題、利用予約の調整が、学校側もかなり負担になっているということも以前お聞きしたこともあるので、うまくＩＣＴを利用したシステムを活用して、スムーズに利用者が予約できたり、調整できたりするという形があったら良いかと思っております。先進的な事例として、沖縄県うるま市では、ＩＣＴを活用した学校体育施設の有効活用を全面的にやっていて、鍵の受け渡しをいちいち学校で申請というのではなくて、スマートロックという既存の鍵に機器を取り付けて、暗証番号をそれぞれ利用者に教えることで、その日その日で番号を変えながら、開錠・施錠できていくというシステムがあるそうです。これを使えば、災害時に避難所として使うときに、鍵がなく

でもスマートフォンがあれば暗証番号で開錠できるというシステムなので、学校側の負担が減ってくるのではないかと思います。いずれまた先の話だと思いますけれども、いろいろな方が不安に思う中で、対策を示すことで安心して皆さんが受け入れてくれるかと思っています。財源等、いろいろ大変なことをたくさんクリアしなくてはいけないと思いますけれども、またその辺も示していただいて、実現に向けていただきたいと思います。

○市長(田村 敏和)

ありがとうございます。安川委員、どうでしょうか。

○教育委員(安川 薫)

本当にこと細かく、資料がだんだんと形になっていって、今があるのだと感謝しています。読めば読むほどより複雑で、大変なことだと思うのと、既存の部活動とはまた違った選択肢がたくさん増えるという意味では、子どもたちにとって良い反面、ではどれを選んでいいのだろうという迷いというか、内容が分からないので、より何を選んで良いか分からないという一面も出てくるとは思います。これは今から中学生というよりは、今の小学生の子たちに少しずつ浸透していかなくてはいけないことかと思うのですけれども、以前保護者向けと、子ども向けのリーフレットがあったと思うのです。リーフレットだと簡潔で分かりやすいのですけれども、もし導入という糸口で、一次情報として提供できるということであるならば、例えば、短い動画を作ってアナウンスするという形も一つかと思っています。それも堅苦しいスーツを着た人が説明をするのではなくて、例えばですけど、やはり中学校部活動の地域展開ということを全国的に進めていくとは言え、市独自、自治体独自という側面を少し利用させていただくならば、白山手取川ジオパークイメージキャラクター「ゆきママとしくちゃん」にお手伝いしてもらって、アニメーション形式でしゃべってもらうということであれば、子どもたちにとっては聞きやすいのかな、と感じました。

本当に選択肢が増えて、学校の部活動というところの話ばかりになるのですけれども、生涯学習ということであれば、コミュニティセンターというのは拠点としては大きな役割を果たしてくると思います。平日は学校で部活動をして、

例えば、土日はコミュニティセンターでの催しに参加してみようかといった流れもあると、コミュニティセンター自体が防災というところも担っておりますので、子どもたちが、万が一避難しなければいけないというときに、安心してコミュニティセンターに行けることにもなると少し思いました。

あとは、やはりどうしても合唱部はいいけれど、吹奏楽部は・・・というお話はずっとあると思うのです。楽器も大きいし、人の移動、指導が本当に難しいと思うのですが、我が子が吹奏楽部で、去年なり一昨年なり大会に出させていただいているときに、富山県の団体なのですが、氷見市の市民楽団が一般の部として出場しているというのを拝見しました。構成を見てみると、楽団員の人は中学生から大人までいるそうです。楽団員約60名のうち3分の1ほどが中学生だというのを目にしたことがあるので、そういうところからもヒントになる部分がもしかしたらあるのではないかともし思いました。

これから学校の先生だけではなくて、外部の指導者なり、地域の大人の方達ということで、子どもたちが直接関わる大人の人数が増えていくと思うので、子どもたちが本当に地域に育ててもらい、子どもたちがこんな大人になりたいな、カッコいいなというところも、またこの持続可能な環境づくりというところに一つ大きな意味を持つかと思いますので、また実現に向けてよろしくお願いいたします。

○市長(田村 敏和)

ありがとうございました。では次に小寺委員、お願いします。

○教育委員(小寺 正彦)

今まで、小学6年生は中学校へ行ったらどのクラブに入ろうかと常に思っていたと思います。私もそうでした。一昨年からはクラブ活動が自由だということで、このアンケートを見ると48%の小学生が、中学生になったらクラブを選ぼうと思っていることがアンケート調査で出ておりました。大分クラブ活動が様変わりしたと少し残念に思ったのですが、それでも地域の方が指導者だったら自分もしてみようかという子どもたちは、きっと多くなるのではないかと思います。

そして一番思ったのは、小学生のときに、運動クラブだけではなくて、文化部、要するに先ほど課長が言われたように、ジオクラブ、そして読書クラブ、特に白山市は読書を推進しております。私も高校生のときに運動部に入っていたのですが、高校2年生のときに、土曜日だけ運動部の方は文化部へ、文化部の方は運動部に入ってくださいということが1年間だけ、実験的にだと思えるのですが、ありました。それで読書部を土曜日に選びました。その場合、そこら中の公園で読書できますし、顧問の先生にお願いして兼六園で読書したり、博物館に行ったり、いろいろ行くことができたのです。これが結構勉強になったと思っています。中学生のときに、シーズン・曜日で、例えば木曜日と金曜日はジオクラブに入って、その他の平日と日曜日は野球部にしたいということも今からできることが本当に素晴らしい、素敵だと自分自身は思ったのです。そうした場合、一つのクラブをやめても、もう一つのクラブはずっと大人になってもできるので、良いと思った訳です。急にできないかもしれませんが、今後、2年後3年後に地域の先生方も、いろいろなことを教えていただいて、指導者になっていただければと思います。

そしてもう一つはマイナースポーツ、文化系の歌舞伎等いろいろありますけれども、今から指導者が出てきて、そしてきっと地域の大人に小学生のときにスカウト、勧誘されて興味が増えていって、マイナーなスポーツも白山市で増えていくのではないかと、これからわくわくしてくるなと思った次第です。

そして、学校訪問でいろいろ先生方に聞いているのですが、今現状では、顧問として自分から教えたいという先生方が、4割ぐらいしかいない。6割の先生方が、はっきり言って校長、教頭といった管理職の先生からこのクラブの顧問がないからしないかと言われて、するような実態だと理解したのです。そうした場合、地域に連携した場合、平日の教え方は、専門的な教え方よりも、人とのつき合い方、学校の中でどのようなことをしていけるか、といった勉強的なことも子どもたちに教える。そして技術的なことは、土曜日もしくは日曜日等に、完全な資格を取った指導者に教えていただくというようなことで、子どもたちのレベルが大分急に上がっていくのではないかと思います。また、先生の働き方改革の点で、今まで日曜日にいやいや出ていた先生が、平日だけなら、と今まで以上に子どもたちに接していただけるのではないかと思います。

っています。どれを取っても地域と連携することは、子どもたちにとってはメリットが多いのではないかと思ったので、地域と一緒に進めていっていただきたいと思います。

○市長(田村 敏和)

ありがとうございます。それでは竹内教育長職務代理人、お願いします。

○教育長職務代理人(竹内 千恵子)

まず感想を申し上げますと、読んでみて大変複雑だと思って、この複雑なことをこれまで中学校の先生がやっていらっしゃって、中学校が担っていたことを外に出そうとしたら、こういう細かいことまで考えなければいけないのだと改めて思いました。中学校の先生方は、本当に大変ご苦労されたのだということを感じました。それから白山市の取組案を全部見て、一番良いと思いましたが、中学校の部活動を外に出すということを、中学校だけを切り取って外に出すのではなくて、小学校、中学校、高校、大人という生涯教育の一環としてされていることです。そして、白山市らしいジオ学習、ボランティア活動も入れていきたいというお話だったので、これは非常に本市としてはよろしいのではないかと思います。

ただ、あまりに複雑なので、質問という形になるのですが、先ほど学校指導課長からありました、12ページのコーディネートする運営主体というものが、非常に大きな役割を持つのではないかと思います。これは具体的にはどのようなことを考えていらっしゃるのでしょうか。運営主体の上は教育委員会事務局で、すぐ下がクラブになるわけですから、間に入る、コーディネートする運営主体というものがどうなのかというのが一つです。

それから13ページの、とりあえず休日を連携クラブに移行ということですが、多分、休日の方はやりやすいのではないかと思います。これが平日を移行になると、なかなかこれからやるのは厳しいのではないかと感じています。表を見ますと、学校部活動週6時間以内の活動を目指すということになって、ずっと令和12年まで続いている訳ですが、これで部活動移行の一つの大きな問題、課題であった教員の多忙化、あるいは経験がない部活動の顧問とい

うような問題が、平日の活動で解決に向かうのかということも見通しを、お尋ねしたいと思いました。

そして、15ページに連携クラブの説明があり、「原則1つの中学校の部活動と連携して活動する」のが連携クラブで、発足を進めたい、ということです。そうすると、今まである団体に入っていた子達、いわゆる現地域クラブとの兼ね合いがあります。それから費用の問題で、18ページに「新地域クラブは指導者の指導料を徴収することができる団体」とありますから、新地域クラブは指導者のお金をもらって、競技力を上げていく団体で、どちらかという、楽しくみんなでやりましょう、というよりは競技力を上げていく。連携クラブは指導料を徴収しない、本当に必要な会費だけで運営されていくというのが、よく飲み込めなかったです。中学生のアンケート結果を見ましても、競技力を高めたい、もっと高いレベルの文化活動をしたいという子もいた訳ですし、どうなのでしょう。また、小学校ほか、いろいろなところに支援をしていくというお話があって、今は学校から出たから、みんな理解するけれど、時が経つと、バレーボールをやっている子が全国大会に行くから支援してもらえないか、バイオリンをやっている子が国際コンクールに出ることになったというときに、フェアでないことが起こるのではないのでしょうか。今は学校でやっていて、学校の代表だから支援をするということで皆さんの理解があるわけですが、今後、連携クラブに入っていない子たちとの公平性という問題が出てくるのではと勝手に思いました。

あと、今、実証試験をやっているというので、課題については、今ほどいただいたのですけれど、中学生の反応というのはどうなのでしょう。中学校の生徒たちは、楽しく休日を有意義に過ごしているのか情報等がありましたら、お知らせいただければと思います。

○学校指導課長（齋藤 信之）

まず1点目の運営主体の件で、12ページの真ん中にあるオレンジ色の運営主体（コーディネート）ですが、実はいろいろな先進的な市町の方に視察に行かせていただいております、この運営主体がある市町もあります。運営している方はほぼ元教員、校長先生という方が多くて、部活動の地域展開にふさわ

しいと思われる方に、お声掛けしながら学校と繋いでいくというような役割を果たしているかと思います。白山市においても、そういう方が一人おいでれば、地域の方から先ほど説明した発起人のような方が現れたときに学校と繋ぐ、積極的にお声掛けしながら発掘していくということもできます。運営していく上で、この実証期間の3年間は少し助成をしていく場合に、助成にふさわしいクラブなのかというような見極めもしていただけるのではないかと考えております。

2点目の13ページの移行スケジュールの平日の活動について、今は休日の活動を移行ということを言っていますが、例えば野球を取り上げますと、少年野球のようにナイター練習を平日もやるということになると、やはり土日だけではなく、平日もやるから野球部は必要ないのではないかとということで、野球部もなくなっていくかもしれませんので部活動の数は必然的に減っていくかと思っております。ですが、一定数は残っていくかと思っています。文科省の学習指導要領の方も、その部活動の位置付けを見直すということですので、なくなると私は思っています。ただ、例えば「野球部」ではなくて、野球とサッカーとバスケットボールを混ぜたような「スポーツ部」、つまり「トレーニング部」ということになったとするならば、土日、専門的なところでは専門家から学んで、学校では体力アップという面で役割分担していくことが考えられます。あと、文科省の方は運動系と文化系を混ぜたような種目もあるのではないかと想定してしまして、私はあまりイメージできないのですが、そのようなことも考えていくと、やはり部活動の数は減っていくと思っておりますので、携わる先生も減っていったら、働き方改革には繋がると思っております。ただ、一定数、部活動をやりたいという先生ももちろんいますので、そういった方の気持ちもやはり大事にしたいので、兼職兼業というような仕組みも作っていきたいと考えております。

次に、連携クラブ、新地域クラブですが、連携クラブは原則、1つの中学校のクラブに1つということですが、これは中体連の大会等に出る際に、例えば「鶴来中学校剣道部」として、部活動、学校名で出るものに対して、連携して練習をしてくれるクラブのことを言っています。ですので、主体は学校の部活動をやります。ですが、今考えているこの新地域クラブというのは、その部活動からやはり離れて、学校とは少し連携をするかもしれませんが、離れて地域

の活動に重きが置かれるから、主体は地域のクラブということになるかと思いますが、ですが、先ほど子どものニーズによって、ということもあったと思いますが、例えば、野球をとてレベルの高いところでやろうと思って、硬式野球とかに行きますと、とてもお金がかかり、本当に保護者の負担がたくさんあるかと思っています。今回、申し出のあった野球のクラブというのは、低廉な費用、保護者負担ができるだけ少なく、しかも硬式野球までやりたくないのだけれど、野球を楽しくやりたいという方たちの受け皿、要は硬式野球まで行きたくないから野球をやめるのではなくて、あふれた子たちの受け皿になりたいということです、私どもとしてはとても応援したいクラブなのです。そういった低廉な費用で運営するものを、新地域クラブというふうに思っていますので、従来ある営利目的というか硬式野球、スイミングクラブといったクラブに対して、この新地域クラブというネーミングをさせていただいています。もともと現地域クラブがあって、そういうところとは違う新しい形のクラブが、新地域クラブというふうに思っております。

最後に、実証しての中学生の反応というところですが、そちらまでリサーチがなかなかできないのですが、子どもたちが部活動をしていて、土日もやりたいというお子さんが土日もやっています。だから部活動だけというお子さんもいます。また、土日だけではなくて、少年剣道の、平日の夜の活動もやりたいと行っているお子さんもいます。ですので、そのお子さんのニーズです。そこまでやりたくないというお子さんもいれば、やはり全国に行って頑張りたいというお子さんもいるし、子どもたちの選択肢は連携クラブができることによって、増えているのではないかと考えています。

○教育長職務代理人（竹内 千恵子）

連携クラブに、そういう多様な子どもたちのニーズに合う指導者は難しいと思いました。しかし、地域にも隠れた人材としていろいろなことを得意として、特技を持っていらっしゃる方がいて、意欲もある方がいらっしゃれば、絶対に盛り上げていただけたと思います。

○学校指導課長（齋藤 信之）

剣道は、10名ほどの指導者の方々とお話しさせていただいたのですが、意思疎通がまずしっかり図られていて、それぞれの地域で指導してくださっています。今日出席している山田部長さんも、その専門的な指導者のお一人ですが、専門家の方からそれぞれの地域で学べるというのは本当に大きいと思いますし、今、野球のクラブを作ろうという方についても、先日、野球協会の方が来られました。今は笠間、美川地区かもしれないですけど、ここがうまくいけば協会で繋がっていますので、別の地域ということもこれから生まれていってくれると嬉しいと思っています。

○教育長職務代理人（竹内 千恵子）

そうすると、その低廉な費用でされるということだと、ほとんどボランティアで活動されているということですか。

○学校指導課長（齋藤 信之）

今、野球を例にしますと、その低廉な費用という設定が難しいと思うのですが、謝礼と必要な消耗品を買うのとは少し違うと思うのですが、謝礼で言うと、月に千円、二千元というようなところが低廉な費用というラインかと思っていて、連携クラブについては、実証期間の後は自分たちで運営できるような形になるよう、最初だけは少し助成ができないかということを考えて、今、予算の方に当たっております。

○教育長職務代理人（竹内 千恵子）

細かいこともたくさんお聞きしましたが、何が起こるか分からないけれど、やはり制度設計はできるだけきちんとした方が良いと思ったので、お聞きしました。

○市長（田村 敏和）

ありがとうございました。それでは教育長お願いします。

○教育長（清水 茂）

まず何よりも大事にしたいのは、白山市の基本方針に掲げてあります、将来にわたって中学生がスポーツ・文化活動を生涯学習の一環として取り組むことができる、こういった持続可能な環境づくりを、学校を含めた地域全体で進めていく、これは忘れてはいけないことだと思っております、そのために今までの在り方協議会、そして今日も含めた総合教育会議で受けた議論を受けて、これからも学校部活動に替わる地域クラブの設立に向けて、取り組みを進めて参りたいと思っています。

実は、つい先日、松任中学校の部活動を見に行く機会がございまして、20ほどある、先ほども話があった部活動を文化系も含めて、全部が全部見ることはできなかったのですが、子どもたちはいい顔をしていました。11月に入ってから部活動は5時半で終わるのですが、短い放課後の時間でしたけれども、目標を持ってやっている姿を見ると、非常にこういった機会は、やはり大事だと改めて思いました。そこにはもちろん教員の顧問もいました。それから部活動指導員の方も外部指導者の方もいました。そういった人たちが協力して、やってくださっていることも肌感覚で強く感じました。こういう機会を、ぜひどうやって形として残していくかということで、地域クラブ、今言われた現状のクラブももちろんあるのですけれども、今小寺委員さんからも多様な選択肢というお話がありました。複数の違うクラブにできるといったことも含めた多様な選択肢を認めて、子どもたちが様々な活動を楽しむことができるような受け皿、環境づくりをこれからも作っていきたいと思っています。その一つに、今ずっと話がありますけれども学校部活動と連携した連携クラブがあります。子どもはもちろんですが、送迎等の保護者負担を少しでも軽減する目的はありますけれども、私は何よりも子どもたちが、今まで取り組んできた部活動を安心して続けられるというメリット、環境がこの連携クラブにあると思っています。そのためには、先ほど少し出ましたが、学校側の一方通行ではなくて、地域の指導者との理解の意思疎通といったものがとても大事かと思います。それから新地域クラブですけれども、スポーツ協会やスポーツ少年団、そして今日事務局側にも文化担当の文化課長もいますけれども、文化協会等の理解を得て、中学生の受け入れ可能なクラブの設立について検討していただいております。

ます。また、そうした関係団体とは別に、野球の事例がありました。本当に地域で、自分たちで作って受け皿を作りたいという思いのある、この話を聞かせてもらったときに、このケースが実を結んだら、その人たちのネットワークでこういった受け皿が広がっていくのではないかと思います。野球でも良いのですけれど、野球のその指導者から、また次はもしかしたらバスケットボールといった受け皿を作っていくという、そんな何か期待感もあります。だからありがたいというのは本当に思っています。先程来、学校指導課長が事務局を代表して言っていますが、私も事務局を預かる人間として、これからこういう体制、環境を作っていく上で五つほど自分の中にこう進めたい、という思いがあります。市長に聞いていただければ、と思います。

一つはやはり、まだ周知が不足しているという思いがあります。子どもはもちろんですけれど、保護者、それから関係団体、市がどんな方向に進もうとしているのかということを知ることが、これから必要だと思っています。先ほど安川さんから動画を作ったら、という意見がありました。それもとても参考になります。特に保護者に対しては、年明けからは学校と協力して、保護者説明会を開いて、そこで生の声も拾いつつ、進めていったら良いというふうな思いがあります。

2点目は、スポーツ協会、文化協会と現在指導にも関わっている方々を集めた研修会、説明会と言っても良いと思うのですが、関連部局と連携して開催していきたいと思っています。先ほど佐賀委員から実業団という話もありましたけれど、もしかしたら企業でスポーツを教えるという方も、もし良かったらそういった会議に参加してもらって、同じベクトルを向いて、同じ空間で理解し合えるような機会を持っていけたら良いというふうに思います。そんな中で何か意思統一ができれば、先ほど出たのですが、学校と指導者の望んでいるところが違うというバランスが、少しでも取りやすくなるかと思います。

3点目ですけれども、これも先ほど竹内委員がおっしゃってくれたけれど、連携クラブと新地域クラブの設立拡大を促すためには、どうしても行政としてどんな支援をできたら良いのかということで、先ほどの市が求めている地域クラブの姿に合致している団体であれば、先ほど学校指導課長も言ったけれど、その団体が自走できるまで、その実証期間というのは自走ができるまでの期間

だとすれば、その間に何か運営の補助ができないのかというふうなことは検討していきたいと思います。

4点目は先ほどの運営主体で、これも竹内委員さんが気にかけてくれました。調整力をつけるためには、コーディネーターを受け持つような、もう少し踏み込んで言うと事務室が欲しいと思っています。今、学校指導課の担当が、いろいろな仕事がある中で、本当に汗水垂らしてやっています。いろいろな団体、もちろんスポーツ課、文化課とも連携しようとして、関係部局と話し合いを続けています。一方で、進めていく上では、先ほど言った指導者とも打ち合わせをする。先ほどの野球一つ取っても、コーディネートは事務局職員がやっています。これはかなり骨が折れるところもありますし、こんな言い方をしたら失礼かもしれないけれど、専門的に教員OBの方など、学校現場を知っている人がコーディネーター役でいて、なおかつ会計事務もできるような室があれば、余計に持続可能で回っていくのではないかと考えています。

最後に5点目ですが、これも竹内委員さんから出ました。この設立された地域クラブが今、中学校の部活動だったら、全国大会等に行くと市から補助が出ています。では地域クラブは出ているのかというと、実は激励費というものが出ていますが、中学校部活動ほど手厚くありません。この差別化についてもやはり課題とされていて、実は市議会9月会議で北嶋議員さんから質問を受けました。すぐに解決はできないかもしれないけれど課題整理して、少し地域クラブにも全国大会に出たときの支援ができないのかということは、検討していきたいと思っています。

たくさんですみませんが、五つの点についてはこれから具体的に進めていく上での課題かと思っています。いずれにしても、中学生が将来にわたって持続可能にスポーツ・文化活動に取り組めるよう、また関係部局と連携してやっていきたいと思っています。

○市長(田村 敏和)

貴重なご意見をどうもありがとうございました。私の方から、いくつか意見を言わせていただきます。

まず、今教育長から話があった周知不足についてですが、そもそもこの部活

動というのは、中学校でなぜあるのかということが、多分、皆さん意識がバラバラなのだろうということは思います。もともと中学校の部活動とは教育課程上やらなければいけないものではなかった。子どもたちがテニスをしたい、サッカーをしたい、とその集まりができた。その集まりに対して、学校として皆さんが練習する場所をお貸しします、子どもたちだけでは危ないから先生も見ます、と専門性があるかないかは別として、そうやって先生たちが、子どもたちがやりたいということを応援する場を作ってきた。実は、私が中学生のころは今年あった部が来年はない、先生が変わっているのは普通に当たり前のようになっています。それが、クラブ活動というのが学習指導要領上の教育課程に入れなさい、と出たのです。クラブ活動と部活動は全く別物で、クラブ活動は部活動とクラブの一体化をしても良いということになって、部活動とクラブを一本化したので、全員がクラブという授業を受けなくてはいけないから、全員部活動に入ってください、みたいになったのです。そうすると全員が部活動に入らなくてはいけなくなったのですが、それが今度はクラブというものが教育課程上なくなりました。なくなったので、実は部活動は入らなくても別に教育課程上問題なかった。それがずっと全員入部制ということだけが残ってきている。先生方も最初、子どもたちがテニスをやりたいというから、場所も用意してやっていたのが、だんだん高等学校に部活動等についての推薦入部というものが増えてきたら、専門性をとても求められるようになってきた。そうすると、先生方に対しても、皆さんの思いは早く・強くということで、この先生は遅くまで土曜も日曜も見てくれるけれど、あの先生は全然見てくれないという話です。実は、別に先生も土日はそんなに見ていなくてもやりたい人はやっているし、やらない人はやらなかったのです。子どもたちがやりたいならば、自分たちで集まってやる場合もあったのですけども、そもそもそういうものだったのですが、今ある部活動への思いというのは、先生が専門性を持って、子どもたちに専門的なトレーニングをして欲しい、ということが皆さんの願いなのです。それを今度は学校が受けきれなくなったので、専門性のある方に、地域にお願いするということになってきたという話です。だから、専門的なことを習うなら、専門性の高いところでやってください、ただ先ほどあったように、楽しみたいという子たちも当然いるのです。それをいわゆるコミュニティセン

ターでの文化活動もそうだし、今、新地域クラブでスポーツ性は高くないけれど、楽しんで野球をやって欲しいというチームもできて良いと思います。そういうものができていけば地域でもやれるので、やりたい、教えたいたいという先生は、先ほどお話があったように兼職兼業でやれば良いと思います。ただ先生は、その時は勤務ではないので、勤務時間が増えたという言い方できないけれど、そこは自分の地域活動として捉えてもらうしかないだろうとは思っています。そういう意味で皆さんが言っていっぱやる、子どもの思いに沿った形になっているかどうかを常に検証して欲しいと思っています。今、剣道で実証実験をやっていますが、多分、子どもさんの思いに沿った形でやれているから、地域の方もそのことを分かってやっていただいているだろうと思いますし、今、新地域クラブを作ろうという方も、子どもたちが野球をやろうと思っても、学校で部活動をやろうと思ったら、1，2人しかいないからできないけれど、地域でいくつかが集まれば、常に野球を楽しめるというのであれば、そういう形を取ってあげれば子どもたちは楽しいと思う。ただ問題は、指導者等、先ほどから出ている人材、または費用面です。遠征をするときに費用をどうするのか。これが中学校の部活動であれば、バスは市から出していただいたもので動けるけれど、これが地域クラブになったらそういう移動手段がなくなるといった課題をどうクリアするか、ということも問題でしょう。

あと、運営主体という話が先ほどありましたが、この辺は総合型地域スポーツクラブというのをスタートさせたときに、かほく市は本当にうまくやっていますが、白山市の場合、うまくいなくて「ぴいすく美川」はいくつかやっていますけれど、ここがもっと広くできるかと言うと、できていないのです。かほく市は、完全に宇ノ気中学校横のかほく市の体育館1階に事務局を置いて、地域のスポーツの運営を基本的に総合型地域スポーツクラブがやってくれて、退職校長、退職教員が在籍しています。だから、その辺がうまくいけば、運営主体を教育委員会事務局ではなくて、地域型総合スポーツクラブに持つことができるので、そういう組織づくりをやらないで、コーディネーターを置いた方が良いと言ってもなかなかうまくいかないで、組織づくりをしなくてはいけないと思います。

あとは、子どもたちが大会に出るときの参加のための旅費等が、これから大

きい課題でしょう。クラブチームとして出た場合は激励費ぐらいだけれど、学校の部活で出たら、いろいろな移動に関するお金、宿泊のお金を出しています。ただ、県内自治体によって違いがあるので、白山市は本当にそういう意味では十分に出して、子どもたちの気持ちに沿ってやっていますけれど、そうではない地域は自分たちでお金を出し合って、自分たちで練習に行くのも、自分で路線バスに乗っていかなければいけない地域もあるわけですから、そういうところもこれから課題として考えていかなければならないのかとは思っています。私が最初に思いますのは、子どもの思いに沿った活動であるか、こちらから、これしなさいではなくて、子どもたちがやりたいことをやれるようにという意味でコミュニティセンター化された生涯学習の場というのは、これから重要な位置にあるのではないかということ私は思っていますので、この前から文化祭を回って歩くと、いろいろな絵手紙、書道、様々な小物を作る等いろいろな活動をしていて、子どもたちの作品もありましたけれど、そういう中に出るのも良いのだらうと思いますし、別に無理に部活動をしなければいけないということで今はなくなっている。

ただ、あと問題は吹奏楽のお話が出ましたけれど、吹奏楽をどういうふうにしていくのか、先ほど市民楽団という話ありましたが、合唱は楽器がないのですけれど、吹奏楽は楽器の保管と移動という問題は前から出ていますが、白山市中学生吹奏楽団みたいに作るか、一般の人も交えてやりたいという人も出てくるかもしれません。練習場所として、文化ホールはそれぞれの地域にありますから、そういうところに常に楽器を保管する場所があつてということも良いかと思います。ただそうすると、やはり学校でやりたいという先生は、やってもらえば良いです。あとは先生方の働き方改革という意味では、月から金までの勤務時間中は、やってもらえば良いかと思うのですが、土日については何年か後にはもうやらなくするのですか。

○学校指導課長（齋藤 信之）

今のところ、来年度いっぱい土日の移行をしながら、再来年度、令和8年度からは土日を学校ではしないという方向です。

○市長(田村 敏和)

先生方は、やりたければ兼職兼業で、教員という立場ではなくて、地域の指導者という立場で土日を教えるということですね。公務ではないので公務災害の対象外となるのか、公務にしてしまったら時間外勤務が増えてしまうなど、多分、これからまだ考えなくてはいけないことがたくさんあると思いますので、大変だと思いますけれど、どうぞよろしくお願いしたいと思います。もう1回繰り返しますが、子どもの思いに沿った形になっているかどうかを、常に検証していただければと思っております。大変有意義な意見交換となったと思っております。

本日予定した議件は以上ですが、その他に何かございますか。—————
それでは、進行を事務局に戻したいと思います。

○教育総務課長(西村 幸広)

ありがとうございました。本日、協議いただきました議題につきましては、皆様からのご意見を参考に、今後の事務事業などを進めてまいりたいと存じます。

これをもちまして、令和6年度第2回白山市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午後3時17分